

土壌の生物性診断第一弾のご案内

株式会社つくば分析センターは全国土の会と連携し、土壌の生物性診断を開始します。
その第一弾は、リアルタイムPCR法による土壌中のセンチュウ密度の診断です。
今後、根こぶ病菌、フザリウム菌密度など他の項目も追加していく予定です。

土壌のセンチュウ診断について

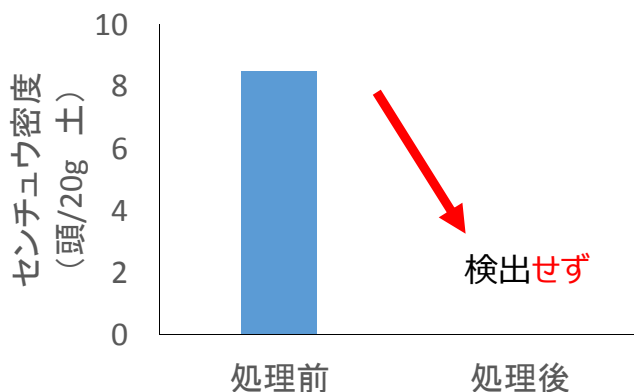
センチュウは土壌中に生息する肉眼で観察できないほど小さな生物です。一部の種類は植物を加害し、農作物に被害をもたらします。土壌中のセンチュウ密度を把握することは、センチュウ被害の未然防止や農薬の費用削減など作物栽培にとって有用です。

- ✓センチュウ害の未然防止に
- ✓不要な農薬の削減に
- ✓土壌消毒効果の確認に

検査項目	加害作物
ネグサレセンチュウ	広く様々な作物
サツマイモネコブセンチュウ	イチゴや落花生を除く主要な作物
ダイズシストセンチュウ	ダイズ、アズキ、インゲンなどマメ科の作物

診断の活用例： 太陽熱消毒効果の確認

ネグサレセンチュウ汚染土壌を用いて太陽熱消毒の効果が確認できるかを試験しました



太陽熱消毒によるネグサレセンチュウの死滅が確認できました
安心して次の作付けができます

分析方法の概略

土壌からのDNA抽出



リアルタイムPCR法を用いて
各センチュウごとに分析



センチュウ密度の算出



センチュウ診断報告書

受付日 2018年12月7日

報告日 2018年12月12日

農大 太郎

様



株式会社

つくば分析センター

Tsukuba Analysis Center Co., Ltd.



〒305-0047 茨城県つくば市千現2丁目-1-6

TEL.029(858)3100/FAX.029(858)3106

検体名	検査項目	汚染度 レベル	センチュウ 密度 (頭/20g風乾土)	低 ←汚染度→ 高			
				0	1	2	3
⑤-1	サツマイモネコブセンチュウ	1	59	*	***		

汚染度レベル：0：検出なし

- 1：要防除水準以下。ただし、ウリ科、ナス科、根菜類の場合はセンチュウ被害がしやすいので防除の必要がある場合があります。
- 2：防除策を行い、センチュウ密度を下げる必要があります。
- 3：防除を行ってもセンチュウ密度が下がりきらない場合は、非寄生作物に転換する必要もあります。

コメント：次作、キュウリの栽培をお考えとのことですので、防除を行ったほうがよいと思われます。センチュウ害が確認された株は土付きのまま圃場外に持ち出す必要があります。株周辺の土壌にも卵などがある可能性があります。ネコブセンチュウは土壌の深いところでも生育するため、土壌の深い位置の消毒が必要になります。

○分析結果は、供与された試料についての結果であり、当該試料の母集団を保証するものではありません。

○弊社は本報告書に限り責任を負うものであり、検査結果の取り扱いあるいは検査結果によって生じる一切の問題について免責されるものとします。

○本報告書を他に掲載するときは当社の承認を受けて下さい。